

令和 6 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長	岡本 真一郎	生徒指導主事	金谷 綾太
取組事例名	『縦割り活動の充実』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
縦割り活動を通して、生徒同士の関わり合いのなかで自己有用感の向上を育む。また、生徒が主体的に企画を立案、計画していくなかで自治力や組織力を高めることを目的とする。	自ら考え、行動し、生徒自身の力で、学級や学年、学校全体を動かしていくことができる生徒 「思考力・表現力」「自主性」「自己有用感」



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
①体育祭では、各学年から団長・副団長を選出し、全体の前で活躍できる場面を設ける。ブロック（縦割り）種目については生徒が企画し、種目を精選する。3年生が中心となってグループ（ペア）決めや練習内容を考え、ブロック全体を動かす。体育祭終了後には、全体の前で団長と副団長から振り返りのあいさつをさせ、全体で労う場面を設ける。	生徒にめあてをもたせるために ○行事や日々の活動の中に、縦割り活動を仕組み、生徒同士が関わり合う必要感をもたせた。
②文化活動発表会では、ステージ発表の一つである「廿中ソーラン」を踊る有志を募り、夏季休業中から生徒の力だけで練習をする。3年生から後輩へ伝統を繋ぐ取組の一つとなっている。また、合唱練習ではブロック練習の時間を作り、各クラスの合唱を見せ合うなかで、良い点や改善点を指摘し合う。	生徒の意欲を高めるために ○企画段階から生徒に参画させ、目的を達成するための方法を考えさせ実行させた。 ○リーダーを位置付け、ブロック等を引っ張る場面を多く設けた。
③行事への取組の一つに、お互いに感謝の気持ちを伝え合ったり励まし合ったりするメッセージカードを送る活動を入れる。	生徒の頑張りを認め、価値付けるために
④ブロック集会では、つながりを深めるために、3年生がレク等を企画する。	○ブロックリーダーや学年リーダーの振る舞いについて全体の前でフィードバックをした。 ○お互いの良かったことを伝え合う取組を行った（掲示物で可視化）。



3 成果と課題

○自己有用感については、全校生徒の 88%が感じることができた。今年度から行事や日々の活動の中に縦割り活動を意図的に仕組んだことが成果に繋がったと考えられる。生徒一人一人が、それぞれの集団のなかで、自己の役割を果たしたり、仲間と協力したりしながら、目標に向かっていきいきと活動している姿が多く見られた。
●取り組ませたい内容が多すぎると、目的がぶれてしまったり生徒への負担感に繋がったりしてしまう。より活動が充実するように内容を精選する必要がある。